

令和4年度津市総合教育会議懇談会の結果について

1 懇談会の開催の趣旨

総合教育会議懇談会は、市長と教育委員会が教育行政のあるべき姿を議論するにあたり、現場の声に耳を傾け、そこで把握したことを次年度以降の取組に活かすことを目的として開催しています。

懇談会は、平成28年度から実施しており、今年度は、津市小中学校長会役員、津市立幼稚園長会役員、現場教職員の代表、津市PTA連合会本部役員の皆様との懇談の場を設けました。

今年度は、「今後の教育施策の取組について」をテーマとし、新型コロナウイルス感染症に対して、引き続き教育現場の中で状況に応じた適切な感染防止対策を行いながら取り組んでいく必要があると考え、教育の現状についてお気付きのことやお考えのこと、また、これまでの取組をどう展開させていけばよいか等について、御意見等をお聴きしました。

2 開催日時

令和4年8月17日（水）	14：00～15：00	津市小中学校長会役員
	15：15～16：15	津市立幼稚園長会役員
	16：30～17：30	三重県教職員組合津支部役員
令和4年8月23日（火）	19：00～20：00	津市PTA連合会本部役員

3 主な意見の概要

	津市小中学校長会役員	津市立幼稚園長会役員	現場教職員の代表	津市PTA連合会本部役員
GIGAスクール構想の実現及びICTの効果的な活用	・ソフト面はロイロノートとデジタル教科書、ハード面ではタブレットと大型テレビが、ハードとソフトで2大ツールと考え、これをいかに活用して学びの質を高め深く学べるようにするかが大事である。この2大ツールを継続的に使って、より質の高い教育の取組をしっかりと展開していきたい。 ・タブレットのリプレイス時の費用と破損時の対応について、保護者負担を少なくするようお願いしたい。また、大型テレビについては、古いものも残っているので、計画的な更新をお願いしたい。	・オンライン研修等でこれから学ぶべきテーマ等に取り組みながら、幼稚園側からICTを活用して情報発信していくことが必要と考えている。	・タブレット学習が定着しつつあるのは、研修会をしっかりとやっているおかげで指導ができているからだ実感している。 ・子どもたちの学習スタイルの幅が広がった点がタブレット活用の効果であり、課題としては、有害なサイトが表示してしまう点である。学校内ならある程度指導できても、持ち帰り学習時にトラブルが起こりうるのではないかと思う。そういった場合の対策について、今後進めていってほしい。 ・タブレットの持ち帰りが始まれば、修理に出す回数も増えると思うので、十分な予備機の準備など柔軟な対応をお願いしたい。	
幼小連携		・教育長をはじめ教育委員会の方々に、様々な場で幼児教育の重要性を伝えてもらっているので、さっそく校長先生から幼小連携や接続について声をかけてもらった園もあり、我々職員のモチベーションアップにもなり、心強く感じている。 ・小学校との連携について、以前から取り組んではいたが、今年度から架け橋プログラムが実施されることとなった。公立幼稚園の職員として、我々の口から小学校等へ伝え、話し合いながら、子どもたちの連続した学びにつながるよう進めていきたい。		
子どもへの対応（不登校等）	・子どもの貧困や外国につながる子ども等、不登校に関わる子どもたちについては、生活背景を見ながらしっかりと対応していくことが必要。行政、関係機関等に繋げるなど、子どもたちの学びを継続していくために必要なことを、職員と一緒に頑張って取り組んでいくことが大事だと考えている。 ・不登校の子どもにタブレット端末の活用も非常に有効であることを実感している。	・「さりげない学び」が幼児教育の本質であり、その学びによって教育効果が必ず現れてくるということを考えながら、子どもたちと接し、また、津市で積み重ねてきた幼児教育の伝統と歴史を大切にしていってほしい。	・小学校低学年は、アナログ体験というものが非常に大事な要素であることから、アナログ体験とデジタル体験とのバランスを見極め、子どもと関わり合いながら授業に取り組んで行かなければならないと考えている。	・不登校の子は津市内にも相当数いて、理由はそれぞれあると思うが、義務教育、学費の保証という観点から何らかの対応策をお願いする。また、岐阜市に公立で唯一の不登校特例校ができたと聞いている。それだけ困っている人が多いということだが、津市でも何かできることをがあればお願いしたい。 ・不登校者数が増加の状況にあるが、心の成長として自己肯定感を養うのに読書が大事ということで、朝の読書を取り入れている学校があることを聞いた。今後も、子どもたちの自己肯定感を養っていく教育に力を入れてほしい。 ・コロナの影響により、家庭環境や経済的な部分が子どもの学びを狭めていないか、学習機会を失っていないか、心配りをしてほしい。 ・世界経済が大きく揺らぎ物価高騰となっている中、食費の高騰が子どもたちに影響を与えている。学校給食についても、この物価高騰が影響していて、子どもたちの学びの場所をしっかりと守っていくため、学校へ行くことに何らかの妨げになるような状況が生じないように、今後も取り組んでいく必要がある。
コミュニティスクール	・コミュニティスクールに関わることで「学校を核とした地域づくり」が言われている。学校の地域への開放も踏まえた貢献ができるのではないかと考えている。今後、学校の改修整備を考えていく時には、例えば学校の地域への開放も踏まえるなどの新しい発想が必要なのかもしれない。			・コミュニティスクールで話題になるのが学校の統合についてであり、地域の思いなど様々な意見が出てくることで、話が進まず難しくなっていると感じている。どの地域でもこのような話が出てきていることを現状としてお伝えしたい。
教職員の働き方	・教員支援員及びスクールサポートスタッフの配置によって、教職員も子どもと向き合う時間や自分たちの働きを見直すきっかけになり、時間的な助けだけでなく、個々の働き方について考えることができた。今後も人数や時間を増やしつつ、引き続き人材確保をお願いしたい。		・教員支援員、スクールサポートスタッフの体制のおかげで、働き方に対して見直しをもって行動できるようになったと思っている。現在の教員支援員10人、20校をさらに広げていただきたい。	
部活動への取組（指導員等）	・部活動については、働き方改革も考慮しながら考えていくことになると思うが、地域移行という形が提案されている。移行先である社会教育の分野での枠組みと学校教育の分野での枠組みではまだまだ差があるのが現状で、取組に向けて教育委員会の方で音頭取り又はリードしていただくとうありがたい。 ・少人数の学校は教員の数も少なく専門分野の者がいるとは限らないので、部活動指導員の人員の確保は非常にありがたい。		・部活動の指導について、負担に思う先生もいれば、それをやりがいを感じる先生もいるので、すごく難しい問題だと思っている。また、施設面などお金のかかる問題もあるので、そういうところは何とかしてほしい。	・今後の地域移行の取組について、津市としてのビジョンをしっかりと保護者へ伝えてほしい。
その他	・プール授業について、感染リスクを抑えながら、3年ぶりに実施することができた。先生方が一生懸命に取り組んだ結果、子どもたちの生き生きとした姿を見ることができた。水の事故が多かったのも学校でのプール授業ができなかったことが要因の一つかと思っている。今後も命の指導ができるよう、民間委託を含め取組の方よろしくをお願いしたい。	・公立幼稚園で育った先生達が、こども園、保育園に行った時でも、幼稚園で学んできたことを活かして、先生方とチームとして繋がりが自信をもって自分の保育を続けてほしい。 ・公立幼稚園は研修する時間の確保がしっかりとできているので、その間に力を付けて、こども園等へ異動となってもそこで必要な力を上げていくことが幼児教育全体を底上げすることになると思うので、研修についてはこだわってほしい。	・各学校の施設整備に関する意見のうち、特に水回りに関する意見が数多くある中、先日ある学校で、担当者がすぐ確認しに来てくれて大変喜んでいて。今後もこのような対応をお願いしたい。 ・トイレ洋式化により、便器からの水漏れで臭いがひどくなったり、掃除の仕方も変わったりしてなかなか大変なことを聞いている。子どもたちが安心して心地よく使えるよう整備をしてほしい。 ・4月当初から非常勤講師を任用できると聞いて喜んでいて、人材が見つからず、結局4月以降の任用となった。途中で先生が替わることで子どもたちも落ち着かない状況になるので、4月当初からの確実な人材確保をお願いしたい。	・マスクを外せない子どもがいると聞くが、子ども以上に地域や周辺の大人たちの理解が進んでいないようで、子どもに関わるすべての人が正しく理解する必要があると思う。学校、保護者だけでなく、地域全体で不安を取り除いていく様な取組を進めてほしい。